

もりのマナー



社団法人 全国森林レクリエーション協会



◇もくじ◇	
森へでかけよう！	2
家をでる前からはじまるマナー	4
車をおりたら	8
森の入り口で	11
森の中で	12
帰りには	18



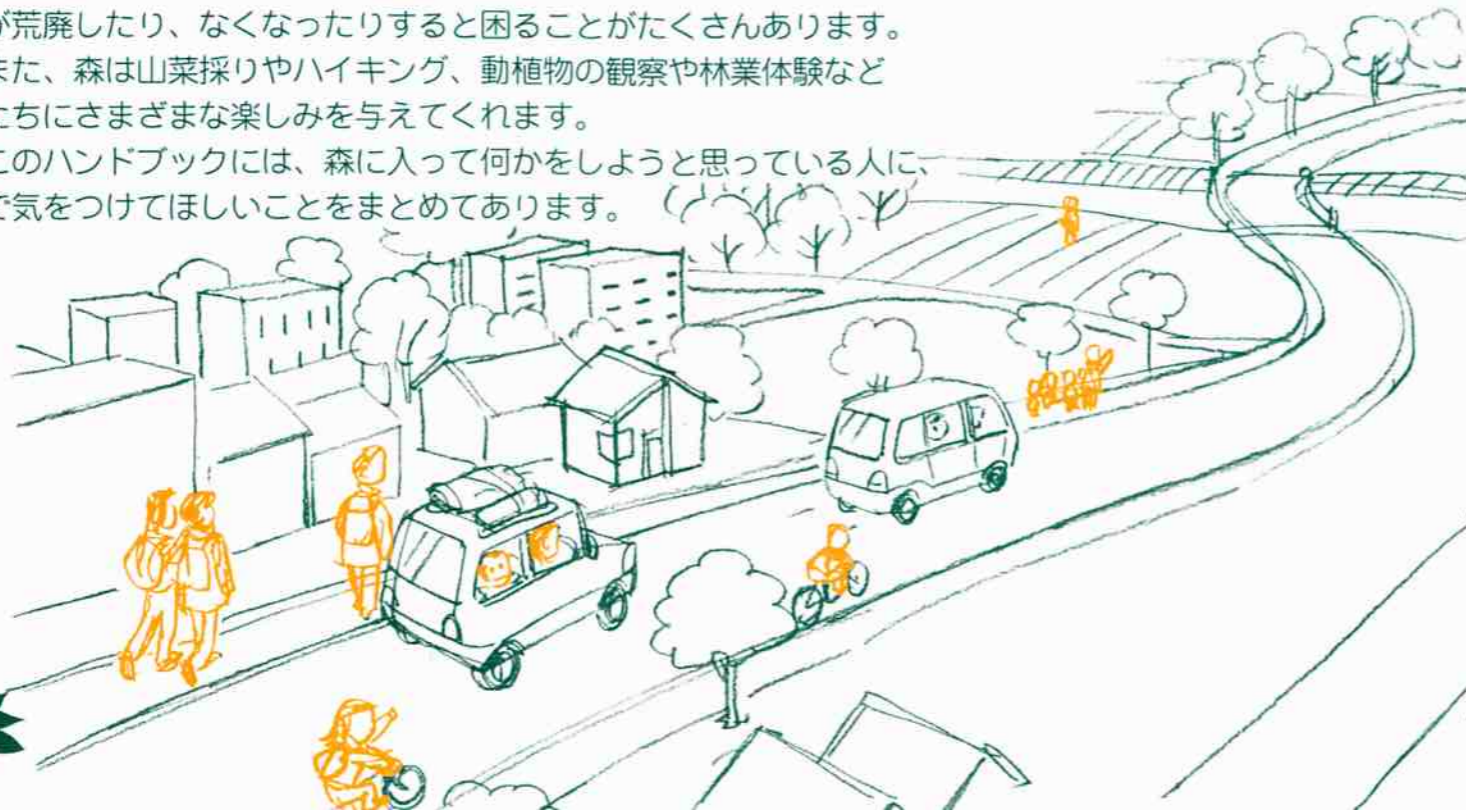
森へ出かけよう！

森は、いろいろな恩恵を私たちに与えてくれます。
色々な生き物が暮らす場になったり、私たちの家を作る木材をプレゼントしてくれたり、地球の温暖化防止に一役買ってくれています。

森が荒廃したり、なくなったりすると困ることがたくさんあります。

また、森は山菜採りやハイキング、動植物の観察や林業体験など私たちにさまざまな楽しみを与えてくれます。

このハンドブックには、森に入って何かをしようと思っている人に、森で気をつけてほしいことをまとめてあります。



手つかずの自然が残されている原生林、カブトムシやクワガタがいる雑木林、林業家の方々が育ててきた人工林など、いろいろな森があります。

こうした、さまざまな森に共通すること、それは「森には必ず持ち主がいる」ということなのです。あなたの家の庭に知らない人がやってきて、勝手なことを始めたら、あなたはどのように思いますか？

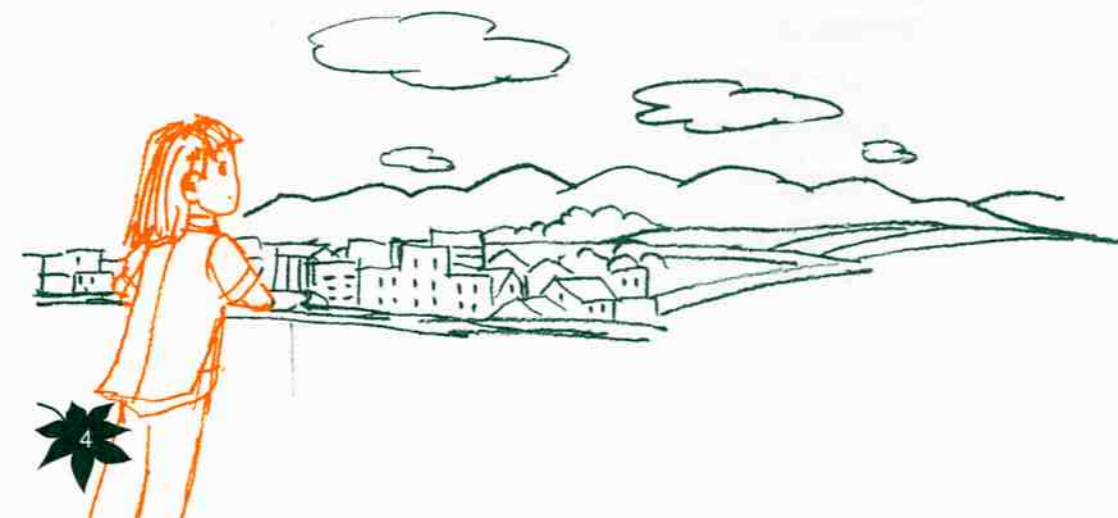
森は私たちのいろいろな活動の場となってくれますが、「森には必ず持ち主がいる」ということを考えれば、守らなければいけないマナーがあることも理解していただけるでしょう。むずかしいことはありません。

このハンドブックのマナーを守って森にとびこんで下さい。森は、すばらしく楽しい経験をあなたにプレゼントしてくれるはずですよ！

家をでる前からはじめるマナー

森を利用するときの一番大切なマナーは、事故をおこさないことです。毎年のように、山菜採りやハイキングに出かけた人が道に迷ったりして大ケガをしています。ときには命を落としてしまうこともあります。

もし、あなたがこんなことになれば、家族や友だちを悲しませるだけでなく、森の近くに住む人々に大きな迷惑をかけることにもなるのです。



では、どんなことに気をつければいいのでしょうか？

- ★無茶な行動計画を立てない★
- ★体調を整える★
- ★行動計画を家族に連絡する★
- ★装備・服装・持ち物に気を配る★

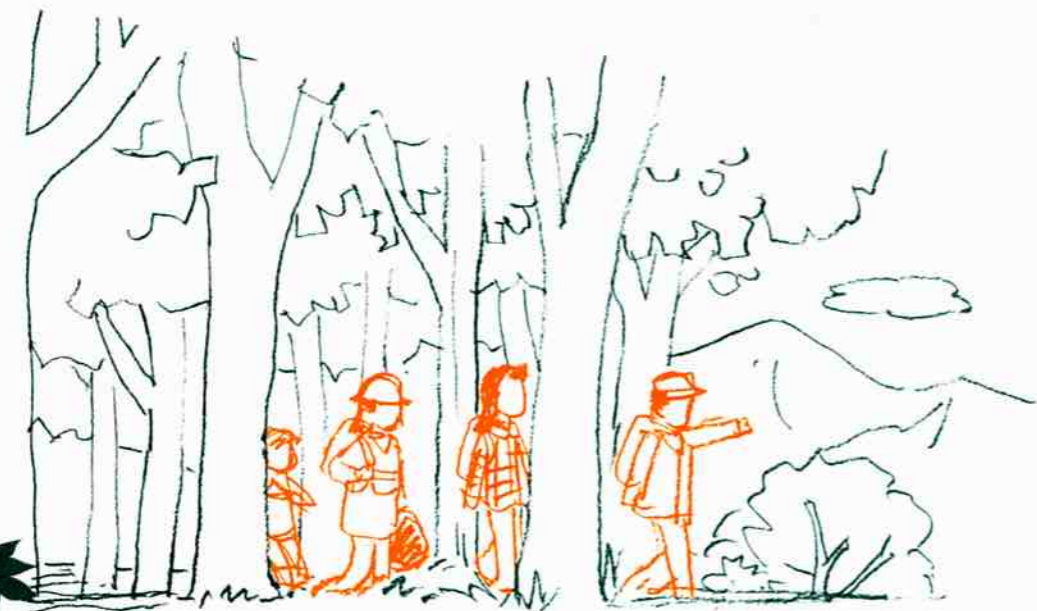
すぐ近くに山菜を採りに行くだけだから…、
気楽なハイキングに行くだけだから…。
森での事故の多くはこういうときに起こります。

前の晩に夜更かしをしていたり、
前々からの計画だからといって
悪天候にもかかわらず出かけたり、
家族に行き先をはっきりと告げずに出かけたり
というようなことが事故を引き起こす原因となります。



また、天候の急変やケガ、蜂さされなど思いがけないアクシデントも、森の利用にはつきものです。こうしたアクシデントのときにも対応できるように活動に適した服装と最低限の持ち物を用意することも大切です。

次の七つは、森を利用する際には必ずもっていく習慣をつけるといいでしょう。ただし、森の中にもちこんだものは必ず持ち帰ることが大切です。はじめから、不要なもの、ゴミになるものはもちこまないことも大切です。



水筒……………飲料水ばかりでなく傷口をあらうなどさまざまに使います。

雨具……………雨は体力と思考力を急激に奪います！

ナイフ……………小さなもので十分です。

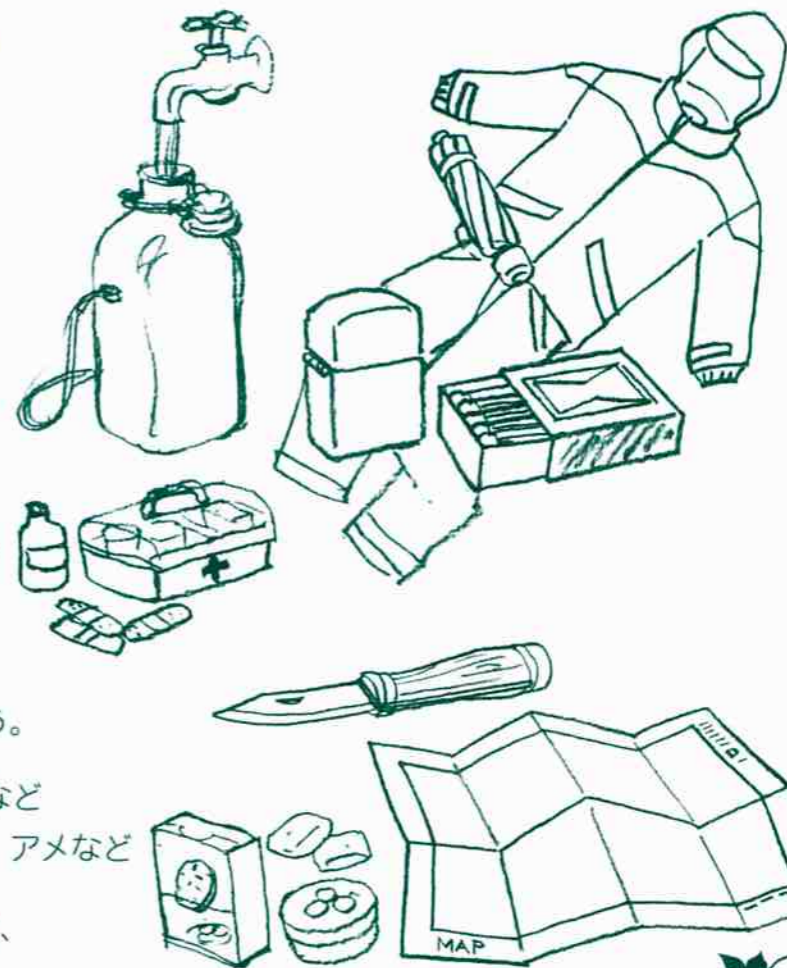
マッチ、ライター……………たき火のおかげで助かった遭難者はたくさんいます！

地図……………新しいものを用意しよう。

救急セット……………バンドエード、消毒薬など

非常食……………カンパン、ビスケット、アメなど

あなたのまわりの人々に迷惑をかけないこと、これがマナーの第一歩です。



車を降りたら

家をおいて、列車や車を降りると、のどかな村の風景が広がります。あなたが出会う村の人々は、森の持ち主さんなのです。森で遊ばせてもらうのですから、あいさつを欠かしたくはありません。

万が一、あなたが遭難しそうになったときにもあいさつしたことを覚えていてもらえれば、助かる確率もずっと高くなるのです。



道ばたの草花や山菜も誰かが植えたり、育てたりと、必ず持ち主がいます。きれいだから…、おいしそうだから…と勝手にもっていかないようにしましょう。

★他人の庭で遊ばせてもらっている自覚を！★

こうした村の人々の多くは農業や林業を仕事にしています。

家畜を飼ったり、堆肥をつくったりと
においが出る仕事もありますし、
作業用の服が汚れてしまうこともたびたびです。

それなのに、よそから来た人が「きたない」、
「におう」といえばどんな気持ちになるか
考えてみて下さい。

あなたがあいさつと礼儀を忘れなければ、
村の人々は、もっと森を楽しめるように
いろいろなことを教えてくれるはずです。





森の入り口で

いよいよ森の入り口です。

森にはいるときには、つつい車で行けるところまで行きたくなるものです。

しかし、森の道路は林道といって、村の人々が生活のために使ったり、森の手入れをしたり木材を運び出したりするための道路です。

こうした道に車を取り入れたり、駐車しておくことは避けなければなりません。特に細い道の場合、木材を運び出す車の通行を妨げたり、救急車や消防車の通行のじゃまになります。

★細い道まで車やバイクで入らない★

★決められたところ以外には駐車しない★

また、登山道の入り口には入山届けの用紙が備え付けてあるところがあります。必ず入山届けに記入するようにして下さい。森の入り口で一番大切なことは、引き返す勇気を持つということです。

せっかくここまで来たのだから…といって体調が悪かったり、天候が悪かったりするのに無理をすると大きなケガや事故につながります。あなた自身のため、そして地元の人々に迷惑をかけないためにも常に自分や他のメンバーのコンディションをチェックすることが重要です。

ゆったりと無理のないペースで行動すれば、森もあなたが急いでいたときには見せてくれなかった一面を見せてくれるはずです。

★持ち物を確認しよう★

★入山届けは必ず記入しよう★

★引き返す勇気を持とう★



森の中で

水筒に水を入れ、靴ひもを確かめて、さあ、いよいよ森に入って活動開始です。森の中ではさまざまな音が聞こえるはず。沢のせせらぎや野鳥の声、林業家の人々が木を伐る音。こうしたいろいろな音に耳を傾けることは森を楽しむ上でも大切です、あなたの身を守ることにもなるのです。

うっそうと茂った森では、雨の降り始めは雨音で知ることが多いものです。遠い落雷の音や大きな水音、大きなものがころがるような音など危険を知らせてくれるサインを見逃してはいけません。

あなたが常に大きな音を立ててはわかりませんね。また、大きな音は他の活動グループや森に生息する動物にも迷惑をかけることになります。

道に迷ってしまわないように、大きな樹木や岩、川や橋など目印になるものをよく覚えておくことも大切です。



- ★ラジオのつけっぱなしなど大きな音を出さない★
- ★目印になるものをよく覚えておこう★



森の中ではきれいな花や珍しい動植物にも出会うことでしょう。
家で育ててみたい、飾ってみたいと思うことですが、
森の生態系はデリケートなバランスで成り立っています。

動植物のむやみな採取は生態系を壊してしまうことにもなりかねません。
村の人々の生活は森からの様々な贈り物で成り立っていますので、
生態系を壊してしまうと大変な迷惑をかけることになってしまいます。

動植物は持ち帰らず、
次に来るときまでの楽しみにとっておくようにしましょう。

また、あなたが家で育てていた動植物を森に持ち込むことも、
森の生態系の破壊につながりますので気をつけて下さい。

- ★動植物を持ち帰らない★
- ★動植物を傷つけない★
- ★動植物を持ち込まない★



たばこを吸う人にとって
森での一服はこたえられないものでしょう。

沢の水で入れるコーヒーも、
森でしか味わえない楽しみです。

けれども、山火事の原因の第1位はたばこ、
第2位はたき火の不始末です。

あなたが捨てた吸い殻や後始末の不十分なたき火が
村の人々と森のいきものの生活を壊してしまいます。

たばこを吸う人は必ず携帯用灰皿を使い、
たき火は許可されたところだけで
おこなうようにして下さい。

- ★火のあつかいには注意しよう★

森の中での活動は楽しく、つい時間がたつのを忘れてしまいます。けれども、あなた自身のまた仲間たちの体調をよく観察して下さい。

木の根に足が引っかかることが多くなってはいませんか？

疲れた時の行動は判断力をにぶらせ、大きな事故につながることも少なくありません。

また、でかける前に立てた計画をきちんと守ろうとしすぎることも事故につながります。

行動計画は一応の目安にすぎません。

早め早めに休息をとり、天候の様子を見たり、靴ひもを締め直すなどの余裕を持つことが大切です。

★行動計画にこだわりすぎない★

★休憩は充分に★



森の中でのお弁当も格別のおいしさですね。お弁当を終わると誰もが帰りの荷物を少なくしたくなるものです。けれども、お弁当のパックやペットボトル等が散らばっている森にあなたはもう一度行きたくありませんか？

食べ残しのように腐って土に還るようなものでも、それをねらってクマやサルなどが出没することにもなります。生態系を壊すと同時にあなたや他の活動グループ、そして地元の人々にも大きな迷惑をかけることになるのです。

ゴミを持ち帰ることはもちろんですが、ゴミになるものを森に持ち込まないくふうも大切です。

★ゴミになるものを持ち込まない★

★ゴミは持ち帰ろう★



帰りに

一日の行動が終わって森をあとにするとき、
また地元の農村や山村の人々に出会うことでしょう。

「あなたの森を使わせてくれてありがとう」、
「無事に帰ってきましたよ」という気持ちを込めて
あいさつをしたいものです。

その時にはぜひ、あなたが森で見つけた珍しいものや、
崖崩れ、落石などの異状見かけたら、このことを
知らせてあげてください。

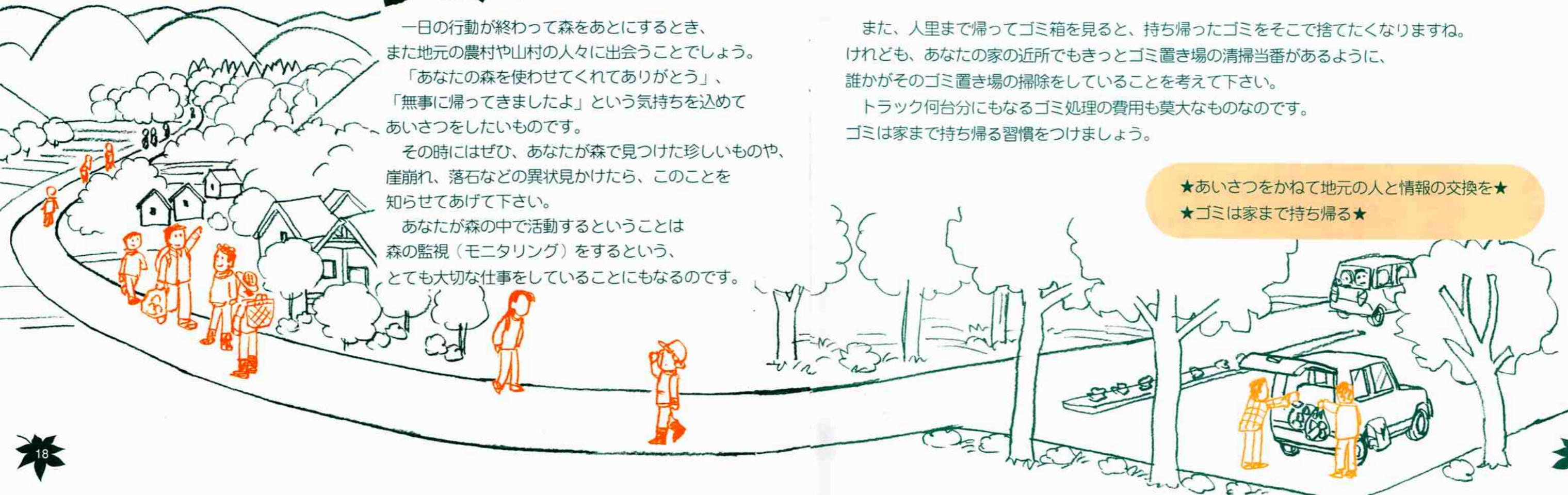
あなたが森の中で活動するということは
森の監視（モニタリング）をするという、
とても大切な仕事をしていることにもなるのです。

また、人里まで帰ってゴミ箱を見ると、持ち帰ったゴミをそこで捨てたくなりますね。
けれども、あなたの家の近所でもきっとゴミ置き場の清掃当番があるように、
誰かがそのゴミ置き場の掃除をしていることを考えて下さい。

トラック何台分にもなるゴミ処理の費用も莫大なものなのです。
ゴミは家まで持ち帰る習慣をつけましょう。

★あいさつをかねて地元の人と情報の交換を★

★ゴミは家まで持ち帰る★



もりのマナー二十二カ条

家をでる前からはじまるマナー

- ★無茶な行動計画を立てない★
- ★体調を整える★
- ★行動計画を家族に連絡する★
- ★装備・服装・持ち物に気を配る★

車をおりたら

- ★他人の家の庭で遊ばせてもらっている自覚を！★

もりの入り口で

- ★細い道まで車やバイクで入らない★
- ★決められたところ以外には駐車しない★
- ★持ち物を確認しよう★
- ★入山届けは必ず記入しよう★
- ★引き返す勇気を持とう

もりの中で

- ★ラジオのつけっぱなしなど大きな音を出さない★
- ★目印になるものをよく覚えておこう★
- ★動植物を持ち帰らない★
- ★動植物を傷つけない★
- ★動植物を持ち込まない★
- ★火のあつかいには注意しよう★
- ★行動計画にこだわりすぎない★
- ★休憩は充分に★
- ★ゴミになるものを持ち込まない★
- ★ゴミは持ち帰ろう★

帰りには

- ★あいさつをかねて地元の人と情報の交換を★
- ★ゴミは家まで持ち帰る★





平成12年9月発行

発行者 社団法人 全国森林レクリエーション協会

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階

TEL 03-5840-7471 FAX 03-5840-7472

編集 人と森林との共生委員会

協力 東京農業大学森林政策学研究室

②10,000